

【開催概要】第1回日野市立病院在り方検討委員会

1 概要

(1) 日時・会場

令和8年5月19日（火）19時～21時 日野市役所4階庁議室

(2) 委員

7名全員出席

(3) 議事

- 令和7年度委託報告書の概要及び市当局が考えている方向について

2 第1回の振り返り

- 病院の経営危機は相当深刻で、早急に方向性を検討する必要性は共有された。
- ただし委員会としては、まず「公立病院として何を守るのか」を整理すべきという流れになった。
- 委員長整理では、第1回は現状理解、第2回は市側が考え方・枠組みを示す回とされた。
- 主な論点は次の通り

論点	内容
稼働率の低さと改善の実現可能性	○ 入院稼働率がここ何年も60%台で推移しており、目標の80%に全くリーチできていない。急性期病棟のままで稼働率を上げるのは構造的に難しいのではないかと、という疑問。 ○ 地域包括ケア病棟への転換で稼働は上がるが、急性期志向のスタッフ文化と相容れるかという問題。
入院単価の低さをどう評価するか	○ 周辺病院と比べ単価が低いと、それは「重症度を問わず救急を断らない」方針の裏返しである可能性。 ○ 単価が低い理由を「経営課題」と見るのか、「政策的選択」と見るのかの整理が必要。
高齢者救急の受け皿問題	○ 行き場のない高齢者を受け入れると退院先がなく滞留し、急性期病床を圧迫する悪循環。 ○ 高齢者救急に特化した地域包括医療病棟の活用が論点に。 ○ 下り搬送先（療養・施設）の受け皿整備なしには根本解決にならない。
公立病院として何を担うか	○ 「公の医療とは何か」-競う（地域医療水準向上）・支える（政策的医療）という役割。 ○ 診療報酬は民間のために設計されており、公立病院に合わない制度設計になっているという構造問題。 ○ 国保保険者としての市と、病院の関係（ガバナンス）が本質的課題。
財政の切迫性と時間軸	○ 直近1～2年で経営が急速に悪化しており、資金不足が現実問題として迫っている。資金不足が迫っているので時間軸を示すべき。 ○ 改善施策は時間がかかる（公務員の人件費削減など）が、資金は今すぐ枯渇しかねないというジレンマ。

3 第2回に向けて

第2回委員会は、市としての基本認識を示す回とする。